夕刊
磐城新聞
十一月十四日發行
(日曜祭日翌日休刊)

# 學生時代は黄金時代

三江生

(2)

次はB中學の曾田君卷五の修身教科書の第一頁には『趙州和尚、因僧狗子還有佛性、也無、州云無』と記してあります、私には何の意が分りません

同じB中學、四年生の後藤君の代數のノートの最後の頁に唄が二つ

春雨にしつぽりぬるゝうぐひすのはかせに匂ふ梅が香やに初まつて終りがサアーッ何んでもよいわいな

それから

玉川の水に晒せし雪の肌つもる口說のそのうちにとけし島田のもつれ髮、おもひださずにわすれずに〳〵また來る春を待つぞゑ

といふやつです

後藤君は料理屋の近くで彌暄しく、とても勉强が出來ぬといつてゐるのが常です

E校の草野君、教室の机の蓋の裏に

『酒は飲むべし百藥の長
女は愛すべし無量の樂』

底には

『色卽是空
空卽是色』

とナイフの痕跡があります

R中學の高木君は一年生です、高木君の上衣の內ポケットには女學生の寫眞が秘められて居ます、その裏には夏刈靜江とサインされてあります、靜江さんは同地のR高女四年生とのコトです

一昨年卒業した栗城君は同級生全部の署名ある紙片を持つて自慢です、それは五年の時校長排斥をやつた名殘りださうです、それでも一人の名が缺けてゐます

かくいふ私ですがその日の出席簿には斜の線が入つて居る筈です

はたらけどはたらけど猶わが生活樂にならざりぢつと手を見る　(啄木)

これを佐々木君は黒板に書き殘して行つたと記憶して居ます、佐々木君は苦學生でした、父の死と共に學校を止したのです、母が病床にあり弟妹を見ねばならなかつたのです、それは四年の吹雪のひどい朝でした

M中中途退學の北條君はシンパの嫌疑で擧げられた事のある自稱プロ作家です

北條君は黒表紙の手帳を書架に陳べて居ります、所謂エンマ帳といふ奴で同君が中學時代學校の廊下で猫婆をきめたものとの由、それを開いて彼は讀みあげるのです

『北條義刻、右傾の兆あり注意を要す』

そして北條君はコロコロとさも愉快さうに笑ふのです

G中學坪內君の教科書博物通論、挿入圖版におしろいばなが赤白とその混血兒と並んでゐます、その圖の裏面に

斷然!僕はシヤンを貰ふ

坪內君は頬骨の起つた鼻の低い好男子です

小菅君のメモには

四日—支那そば二(金春)
きんつば十錢(爺)
五日—こがね十錢(元祖)○燒五錢(巴や)コーヒー廿錢(富士)

でも安心して下さい大丈夫酒一杯なんて書いてありませんから、小菅君は教室で○燒をコロガしてお目玉を頂戴した事があるといつて居ます

# 愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ケ月分の本紙購讀料領收書と引替に抽籤券一枚を呈上。以上三ケ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券卽時呈上

一、抽籤　明春一月四日
一、發表　同六日本紙上

賞品

テーブルゲーム　一面宛

一等特大形(一名)　二等大形(二名)
三等中形(三名)

# 好間の炭鑛研究

發達史と現狀及將來

吉川生

(7)

更に法規に於ては內務省令第七十號によつて勞働者健康保險法が大正十一年四月一日發令されて、實施は大正十五年七月一日の筈であつたが、それより遲れて昭和二年一月卽本期に入つて實施され坑夫の生活に安定を與へられた事である

次に坑夫保護規則が大正十五年六月廿四日發令されて、炭坑經營者に非常なるセンセーションを與へた事である。

卽ち本令は內務省令第十七號によつて十六才未滿の者及女子の坑內就業を禁ずる事、女子の深夜業を禁ずる事の三箇條で之等の必要な事は石炭鑛山の現狀より見て當然必要欠くべからざるものではあらうが、實際家にとつては全く實施の困難が伴ふ事なので昭和五年九月一日より實施すべきところを更に準備期間として同八年八月三十一日迄の猶豫を與へられたが各炭鑛の歎願によつて此の法の實施を免せられる樣になつた

當村では隅田川、萩原の二炭坑は特殊炭坑として此の法に準據してゐないが古河炭鑛では、産業の合理化上より見ても少年坑夫と女坑夫の必要は餘りに感じないので之を實施してゐるが女子深夜業就役(午後十一時より午前五時迄をいふ)は選炭に關する事なので全く困難を感じてゐたが、昭和八年九月一日から就役時間を午前六時から午後十二時迄として(實際は午前五時より午後十一時迄であるので許可を得てゐる)試驗的に實行してゐるが、この爲に新らしく貯炭場も增築せねばならぬので相當の經費も伴ふ事である

四、好間村の炭坑發達史

前述した樣に當村に石炭の埋藏されてる事が知られてあつたのは相當古い傳說を存してゐる樣であつたが營業的な採掘と目される幕末の安藤侯の採掘から明治三十七八年戰役頃までの採掘狀態は石炭そのものが餘りに經濟的に有利な物質として取扱はれなかつたために只當時の人々が怪奇的な眼で眺める位のものであつた事と、若しそれが中央では相當有價な物質であつたにしても鐵道の敷設もなく完全な港灣もなく、運輸交通の不便であつた事はその發展が徐々として進まなかつた最大因であつた。

## 罪の子

郡司諒

おら死んでやろ
なんだつておらは何も惡いこともないに
みんな目尻でおらの顏をみるんだろ
丁度蛇みたいに
みんな思つてるだろ
それも無理はない
おら たらの事考へると
自分でかつとつばをかけてやりたくつてならない
おらはおらの純けつを何んでみにくいか見せてやりたい
おら死んでやろ

## 父

——お父さんの名は
——お母さんは
きいてくる學校のせんせいを
漁師のやうに畏怖れる
おらは蟹でなくてなんだ
秘室に自らを入れる穴のないことを
いくたびのなげきとしたか
眞すぐな道だといふに
蟹の足は横に歩くことを餘儀なくされてゐる涙ながらも

## 社會の今日

11月15日

△幕府萬年靑の貿買を禁ず(嘉永五)△佛國廣州灣を租借す(明治三二)△チ、ハル領事館をハルビンに引揚ぐ(昭和六)△天皇陛下には午前桃山御陵御參拜、午後は大阪府廳に行幸あらせられ、後近畿二府五縣の消防組を御親閱遊ばさる(同七)

○

袴着やふくら雀の帶袋　月尚

かへりみる鍋割山の枯れ色に、夕日は照れりまた逢はめやも　須藤泰一郎

# 講談　幕末神風組

(52)

土生太郎作
高根秀浩畫

染香 (二)

門前に當つて只ならぬ物音、一同がギヨッ!としてゐるところへなだれ込んで來たのは上總屋藤七をはじめとした一隊である

『やあ親分がかへつて來た!』

邸內には一時に歡喜に似た聲が揚る

『捕つたか……?』

『淺野は……?』

と云つた言葉がそちこちで私語かれる

『親分、淺野はどうしやした?』

タッタ今、御木本から强かにやられたことも忘れたかのやうに辰公がのさばり出る

『うるせいやい!汝えはそつちへ引込んでゐろッ』

藤七は辰公を怒鳴りつけて

『御木本の旦那は……』

誰にともなくいふ

『奧で……』

『……又、染香とさし向ひでやつてゐやすよ』

かけ合ひで誰やらがいふのを聞いて藤七は

『チエッ!』

輕く舌打ちたした、そして

『淺野等が押掛けて來るかもしれない、一同は各部署を警戒するやうに……』

と云つて奧へ行かうとした

『親分』

新公が臆病に呼び止めた

『何人だ』

『へえ』

『早く云へ!』

『實は大變なことになりやして親分の留守の間に』

『何んだと』

『ねえ親分、佐吉親分がとうとう逃げて了ひやした』

『エッ』

藤吉は思はず納屋の方を見た。が、すぐ新公に

『そりやあ何時頃のことか!』

『今、先刻のことで』

『ふうむ』

『御木本樣や皆で追ひかけて見やしたが皆目行方が知れねえんで』

『うむ、それで判つた、淺野の奴築地へ行くんだなんていつたが、八丁堀の連中がやつて來たんだな、しまつたことをした』

と一人つぶやくやうに云つたが直ぐ思ひついたやうに

『兎に角、邸內の警戒は嚴重にも嚴重にするんだ』

投げつけるやうに云ふと其のまゝ奧へ入つて行つた

暗い廊下を奧へ〳〵とすゝんで行く時、藤七は妙に追ひかけられてゞもゐるやうに又胸をぐり〳〵とえぐり上げられるやうな苦しさに襲はれた

——それにしても、呑氣なのは御木本の旦那だ、大切な佐吉に逃げられたといふに、女を相手に納まりかへつてゐるとは——

ほんのり障子の明つてゐる部屋の前まで來た

『まあ御前、妾にばつかり呑ませないで御前も召しあがれ』

染香の嬌聲が洩れて來た

『いや、わしはもう飲めん朝から食べ醉ふてしまつたのでな』

御木本のだらしない聲だ

——チエッ!ふざけてゐやがる、こんなことぢや神風組の士氣の衰へるのも無理はねえ、全く嫌んなつちまふ——

『さ、呑んでよ、ね、御前ちや二人で半分づゝよ、妾とかうして呑んで下さる』

續いて障子にうつつた染香の影が御木本の側へにじり寄るとしつかり寄り添ふて了つた、顏と顏とが一つの顏にもつれてゐる

——あゝア——

藤七の嫉妬混りの嘆息が四邊の冷えた空氣を幽かに震はす、が、思ひ切つたやうに藤七

『ねゝ、御免なせえ』

聲をかけると障子を開けたとたんに染香の身体は御木本の側を飛鳥のやうに離れる

『上總屋か』

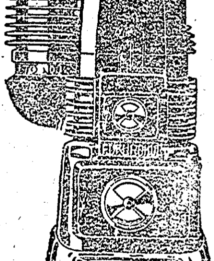
『へえ』

季節料理
海老天どん　一金貳拾五錢
海老天ぷ羅そば　一金貳拾五錢
別製
松茸そば　一金貳拾五錢
滿洲そば　一金拾五錢
土瓶むし。海老天ちら
蛤なべ。かきなべ
本日より始めました。
何卒御試食を御願致します。
……(出前迅速)……
酒喜屋
平田町　電話一七一番

夜間診療
胃腸　性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町　電話一〇七番)

入院隨意(自炊の便あり)
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
(電話一二九)
病室完備

完全燃燒のため煙筒掃除の要なき日本一の……
フクロク・ストーブ



御申越次第カタログ持參御伺ひ致します。
發賣元
㊇ 釜屋商店　平町五丁目　電話九番
㋡ 阿部石炭商店　平驛前　電話三七番

磐城共濟病院
電話 六四一番 一二四番
內科　小兒科　院長 醫學博士 石山謙郎
產科　婦人科　副院長 醫學士 五十嵐雄二
外科　皮膚性病科　耳鼻咽喉科　部長 醫學士 有馬勇二郎
X光線科　醫學博士 石山謙郎
物理療法科　技術員 石山彪
藥局　藥局長 藥劑師 吉本孝平
衛生試驗所　獸醫 高後利雄
事務長 鈴木寶雄
△診療時刻 午前八時より午後五時迄

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

耳鼻咽喉科專門
入院隨意
病室完備
平町田町七〇番地
醫學士 山內亨吉
山內醫院
電話六九一番

別仕立コート
今秋冬の尖端
自然美を機に上せて
織なせる卓越せる生
地を念入りに仕立ました
三井呉服店
電 38 284

專門 一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話一八一番)
川井內科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先(マツサキ)ニ(松崎(マツサキ)ニ)
三九二(ミクニ)タクシーヘ
(デンワ、ミクニ)

# 百五十萬噸の增送で供給不足の憂を除く
## 石炭界明年度の對策成る

本年度の石炭需要は三千四百萬噸に垂んとして本邦に於ける需要の最高記錄たる昭和四年の三千三百廿一萬噸を遙に凌駕するに至り全く驚異的活況を呈した、これが爲め供給不足を來し石炭飢饉の聲が擴大したので明九年度の需給關係は各方面から大いに注目されてゐる最近數ヶ月に亘り昭和石炭が調査を行つた結果明年度の總需要は本年度より更に三百萬噸内外の增加を見込まれ、これに對する供給高は既に先般の石炭聯合會理事會に於る明年度百五十萬噸の增送を行ひ得る事となつてゐるのでそれを含めて前年度より三百萬噸の增加となつて需給は完全に一致するから明年度は石炭飢饉の聲を聞かなくて濟むであらう

## 磐中平商 聯合演習部隊編成
### 十七、八兩日の準備整ふ

戊辰戰役をかたどつて來る十七、八の兩日行はれる磐中、平商對抗秋季發火演習の編成部隊は左の如く決定した

(統監部)統監—矢野校長 補助官—服部、當田、菅原、喇叭班—八田、救護班—室原 (支隊本部)指導官—駒場中尉、審判—大澤支隊外五名、機關銃隊—猪狩英明外九名(第一中隊)指導官—厖原、審判官—武川、中村、宮原(第二中隊)指導官—矢野、藤井。審判官—泉田、新田、下山田

(統監部)小檜山校長、大井川、齊藤、飛原、山崎松本、河野邊、南軍中隊指導掛—庄司、遠藤、柴崎、大淵、江田(給養)廣田、近藤、松本(救護)梅森、仲原、酒井(觀戰部隊)名尾(損害豫防並賠償掛)— 廣田、橋本、近藤(會計)廣田、松本(記者)廣木

## 課税の適正を期す 無屆異動地調査
### 寛嚴の裁量に就て 平税務署愼重に考慮

過般來專任係員により着々進められた平税務署無屆異動地調査は此程愈々完了する運びに至つたがその件數は前年度第二回調査當時の一萬八千餘筆と大差無い見込なるも山林原野を宅地に變換の手續きを怠つてゐる者などに對し現地目により て賦課すると非常な增徴を來す爲脱税の故意ある者に對しては新法の罰則を適用せねばならぬ事となるので同署でも極めて愼重な態度で調査を進めてゐる

## 補充兵證書
### 平町でけふ交附式

平町に於ける今年度補充兵五十名の證書交附式は今十四日午前八時から平第一校禮堂に開き後左記の如く豫備敎育をなした

(藤田中尉)勅諭讀法、軍人精神、時局と國防(藤井少尉)陸軍編成、兵科識別、性能階級(小泉特曹)兵役の義務、軍隊内部狀況、入營心得(大間特曹)官姓名及稱方、言語動作

## 平町關係 入營期日

平町今年度徴兵入營期日は左記の如く決定した

十二月一日(輜二)閤時保(滿洲歩六)鈴木重造(歩三)野上正行(輜一四)關傳助、同十一日(歩七四)小野正二(同)小柳安之助 十二月二十日(野砲二五)林龍郎(同)佐々木正二、一月二十日(以下歩二九)高野靜次、須藤庄一、澤上武雄、大河內寅男、佐藤勇治、本間七五三吉、松田一(野砲二)久田茂正 一月二十日(鐵一)山內勝一(同)丹野勝榮(同)國井正一(電一)關原司(飛七)友部芳久(歩二九)栗城富士夫、六月一日(輜八)た 魚住貞雄、六月十日(以下歩七四)佐々木左三、愛澤正長、小谷大三、岡田定次郎、六月三十日(横海)佐藤嘉雄、松本茂

## 小川水路改修着工
### 來廿三四日の豫定

工費十萬三千圓二ヶ年繼續匡救事業の小川普通水利組合の水路改修工事は愈よ來月初旬から本年度分四萬四

## 大工町踏切 夏井川鐵橋 改修急施方陳情
### 平町の委員が鐵道省へ

交通難と水防を目的とする平町大工町踏切の改善と鎌田鐵橋の延長とは平町民永年の要望なるに拘らず今以て實現されぬので町では此程委員を擧げ鐵道省に急速施工方を陳情する事になつた

## 入營兵送辭
### 縣町村長會から

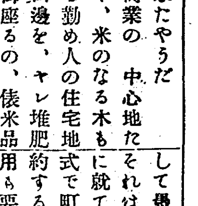
縣町村長會では郡内入營者六百餘名に對し青沼會長の名で送辭を發送した

**入營兵送別會** 平町 本年度入營兵二十九名に對する恒例町主催の送別會は來二十日午前十時から縣社小鍬倉神社が開催すると

## 街頭に活躍
### 平商生徒が 白米の販賣に從事

平商では實際的敎育の目的で來る廿五日頃より一週間の豫定で白米の委託販賣を行ふべく田村郡飯豊村農業倉庫との間に交涉纏まり次第町內要所に賣所を設くる

## 投檜 歡迎投書



### 案外無意味な回章

◇回章の用件は大半が各家庭に共通なもので無く多くの場合自己の生活に何等の係はりを持つて居ぬにせよ、偶々之を知悉し置く必要ある該當者の爲に徹底せしむる親切から出たもので其の都度謄寫版刷りのお布令を各區長に配る當局の勞を多とせぬ譯には行かない

◇處が大部分は兩三日前既に町の新聞紙で見た事なので土地の新聞を讀んで居る程の家では一寸標題を眺めた丈で次へ回すと云つた鹽梅で近頃に於ける回章の效果は先々轉送する手數の割合に有り難味が大部少くなつて來たやうだ

◇而も商業の中心地たる大通りや、米のなる木も知らぬ樣な勸め人の住宅地たるお城山邊を、ヤレ堆肥の獎勵で御座るの、俵米品評會が斯うのと克明に書いた文書が釣瓶落としの秋の日を終日のたり〳〵と流れ歩いてるなんかは正に天下の奇觀である

◇そこで最後に結論として懸案を當局に進言するそれは將來之の種の周知方に就てはその都度町報の形式で町の新聞に掲載方を特約する事だ、尤も相當の費用も要る事であらうが諸事スピード・アップの今日、大して關係も無い用件で全町民を總動員する幕政時代の回章を踏襲するに比べると優る事方々だ(二丁目〇K生)

## 高塔に火を點じて 淒壯な消防演習
### あす平署裏田圃で執行

明十五日の火防デーに平消防組では早曉來警鐘一點打の合圖により午前七時半迄に全員署傍に出動服裝器具機械の點檢後横山署長の訓示あり、規律訓練を終つて少憩、午後一時より新川向ふ田圃に於て炎上の高塔を目標に壯烈な模擬火災演習を行ふと尙町內各戶の火氣檢査をなし平署では同日から二日間署會議室で火防展覽會を開催し大に火防思想の普及宣傳に努める

## 巨匠飛田周山畫伯 晩秋の石城に遊ぶ
### 畫想を練つて今曉歸京

日本畫壇の巨匠帝展審査員飛田周山畫伯は川前の秋色に畫想を練る爲十二日來平同夜は縁戚にあたる二丁目永山小平氏宅に一泊昨十三日は川前及仁井田浦、四倉方面濟遊、今十四日午前零時五十四分の准急で歸京した

## 乘合自動車の驛前停留を嚴禁
### 貨物係附近に車庫新設

平驛前町有地廿七坪は過般來町、驛間に交渉が進められ後藤驛長は去る九日町役場に青沼町長を訪問正式授受を了したので其筋では從來交通上の支障となつて居た驛前の乘合自動車停車を十一日かぎり嚴禁したので營業者一同は一と先づ西寄りの貨物係附近に客待ちする事になり近くそれ〴〵車庫を設ける事になつたと

## 平區長會議
### けふの附議事項

平町區長會議は今十四日午前十時から議事堂に於て開き左記諸件に就き協議した

一、入營兵送別會 二、水道改正條例周知方 三、恩賜財團濟生會治療券利用 四、夜警 五、防火デーの火氣檢査

## 鮫川堰起債
### 昨臨時總會で決議

石城鮫川堰普通水利組合では十三日の臨時總會で八年度から十年度に至る改良工事のため積立金五千圓を運用する事及之に伴ふ八年度豫算の更正及び事業費充當のため七萬三千九百圓の起債をなすことを可決した

## 磐女 菊花審査

磐女では此程生徒栽培菊花審査を行ひ百三十餘點中左記十七點を選んだ

祝司、輝、日の出、神風、舞姿、同、黄金山(以上共同)大鳳(四家、小林)舞姿(太、澤)輝(豊田鈴木)祝司(坂本、鈴木)黄金山(中山、緒形)黄金山(安齊、渡邊)祝司(渡邊、橋本)黄麗(田代本庄)大鳳(薄井、伊藤)祝司(高岡、青木)

## 織物生産高
### 平町の去月統計

平町に於ける去月分織物生産高左の如く玉絹が最多を占めて居る

絹織五反(三九七圓)羽二重十反(六〇圓)生織四反(二十六圓)玉絹十二反(四十二圓)其他價格四十二圓、合計價格四百九十三圓

## 第一校の小劍士達
### 愈々實際の稽古に入る

平第一校では既報の如く今學期より劍道部を新設横田水竹、井上外訓導が擔任指導して來たが昨十三日から愈道具使用の實際指導に入つたので熟練次第校內大會を開く豫定であると、尙目下の受敎者は左記百六十六名に上つて居ると

五年六〇・六年七一 高等科三五

## 受賞十回記念の 愛染明王尊建立
### けふ草野染工場で奉告祭

印半天界の巨頭として仙臺の青山工場と併び稱せられる平町獨特の製品は遠く關西中國方面より關東北々海道に迄進出して地方染色界の爲に萬丈の氣を吐いてゐる平町鎌田町草野染工場では今十四日受賞十回の記念報告祭を執行、二十六夜愛染明王尊碑を邸内に建立し親戚知己八十餘名を招待して盛宴を張つた

同店は明治三年先代草野直松氏の創業に係り三十四年二十四歳にして當主七五三之助氏が繼承爾來十五六年間絹布染に專念し其間賞を受くる事數回更に十數年前より作業方針を今日の印半天に改め一意專念之に傾注して受賞實に十回今回は六縣大會に於て縣組合長として感謝狀を贈られた 尙は工場主草野氏は常に染職政策なる意見を提唱して染物業者の善處と題して技術と經營との二重點を說き先般若松市に開催の奥羽六縣染物業大會に於ても右意見を提唱して一般染物業者に警告する處あり、尙奥羽六縣內同業者に對し徹底的に感知せしめ協力一圓となりて中央主務署に陳情するの必要ありとして右の意見書を六縣同業者に配布すべく準備中であると

## 第二小學校兒女の 國際成績品製作進む
### 獨伊の友人へXプレゼント

平第二校では既報の如く來月廿五日のクリスマスに際してイタリー、ドイツの兩國に對し兒童成績品を贈るべく過般來作製中であつたが本日左の如く書方の審査を了した尙手藝品、圖畫の方も係訓導指導の下に作製を急いで居る

二年—田巻隆子、酒井正子、三年—大和田キヨ子 四年—木田秀子、五年—根本ツネ子、六年—廣邊文子、高一—小野文子、高二—子佐藤光

## 聯合圖畫展
### 連日第三校賑ふ

平三小學校聯合圖畫展覽會は去る十一日より來る十六日迄第三小學校に開いてゐるが出陳百二十餘點で一般の參觀を歡迎してゐる

## 仙台藩人會

平町を中心として附近炭鑛等に蔚然仙臺藩關係者は來十八日午後六時から平町田町大貞に於て懇親會を催すが會費は一圓八十錢であると

## 。。。。信用組合捷つ。

對常磐モリスの野球戰は昨十三日午後三時から第一校に開き十五對十

## 酒造組合協議

石城酒造組合では最近地方釀造酒の品質が低下し過般の縣下及び東北六縣品評會に於ても一點の入賞なかつたに鑑み今後一層品質の向上を圖るべくこれが具体策を協議のため明十五日平税務署樓上で臨時總會を開催すると

## 樫村氏愈々
### 田島町長就任か

明後日選擧町會 田島町長選擧町會は十六日午後一時町役場に開會と決定したが各派協調の詮衡委員が第一候補者と推す樫村慶氏滿場一致で當選するものと豫想される

## 鐵道職員渡滿

平機關庫員の滿鐵行志願者は既報の如く多數に上つたが採用された助手小野圓山、技術部磯上誠平の兩氏は一昨十二日何れも出發した

## 全發聲東京祭

(鈴木傳明、夏川靜江外總動員 前後篇十五卷)

世界第二位の大都市東京は果して何を物語る?

A 繼の踏路の地下鐵ぬけて逢ひに來ました銀座の柳 君とひとときスクラム拱んで、行けばネオンの花ざかり

B 粹な淺草夜ふけの月は、どこかにてます姐御の櫛に、モダン隅田の七つの橋で、泣いて君まつ女もある。

峠三里 犬塚稔作、全十卷、澤村國太郎、芝田新主演、明後十六日から平館で公開

## 。。横領

平町九品寺前五三若松牛乳舍配達人和歌山縣生れ貴志一郎(三六)は去る八月以來好間村上好間大谷勇一方外四十餘軒から集めた賣掛代金百餘圓を今月上旬拐帶逃走した旨雇主の訴へにより其筋で嚴探中

## 。。隔離

平町中町大嶽悅子(10)さんは猩紅熱で昨十三日隔離さる

## 平町慶弔錄

△出生 鐵道官舍三ノ二ひろし三男嚴 南町一五湯本町大字湯本字辰の口五五居住長太郎二男智 六間門二金二朗三男田中康郎

▲死亡 江名町大字下神白字武城一三ノ二 平町四丁目五八鹽田要吉(六二)

新十一月十五日 水曜 舊九月二十八日 乙酉 赤口 開 畛宿

評判定價番 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神聖館

▲一白の人 一戰一戰敵地を侵略する如く勝利を得べし▲二黑の人 人にまん着せらるゝ恐あり金錢取引特に注意▲三碧の人 安全を期せんには心靜かに本業に從ふべし▲四綠の人 一旦の利あらば退きて出直すによろしき日▲五黄の人 他力を頼みとせず自己の力にて進むがよし▲六白の人 衰運の日百事差控ゆべし普請移轉開店大凶▲七赤の人 上下の親み薄く反目を來すべき日雜文注意▲八白の人 榮達を期して空想に終る日病厄盜難等注意▲九紫の人 平運なれども方針を誤り失敗ある危險の日

刀劍研磨 白鞘調製 刀劍把卷 刀劍買入 研師 主 船生四郎 翠光齋 平町十五丁目二六大町通り

最も新らしき ショールは 中野洋品店 平二・電53 ●紳士型 五・五〇 ファー中折帽 特賣

平町南町 耳鼻咽喉 增田醫院 電話 四八二番

貴方の御家庭に お手不足は御座いませんか 本會を御利用下さい 直に家政婦を派出します 親切 叮嚀…… 料金は極めて低廉です 姙産婦の御家庭 御病人の付添 炊事や雜用 お留守居番 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集 平町紺屋町二(電話〔呼〕六五二) 上原家政婦會 會主 産婆 上原通子

吸入用酸素 純度99% 度量衡 モノサシ マス ハカリ 體溫器 寒暖計 ◎秤ノ取扱ヒ 諸修繕致シマス 關內藥局 電話四〇番

電話新設參七七番 高級塗下駄 流行草履 雨傘其他 平町五丁目四 (釜屋隣り) 田口はきもの店 田口辰雄

耳、鼻、咽喉科 氣管食道科專門 平町南町 大和田醫院 大和田郡司 (電一〇七番) (自炊の便あり)